現代史研究会会員の皆様

現代史研究会では、オーストリアより 2 名の現代史家をお招きして、以下の要領で 11 月例会を開催いたしますので、再度お知らせ致します。
当日の講演言語はドイツ語ですが、講演原稿の日本語翻訳版を当会ホームページ上にて開催当日まで配布しております。
以下のリンクより、パスワードをご入力の上ご覧いただけますと幸いです。

アンドレア・シュトゥルツ氏講演内容：AndreaStrutz
モニカ・シュトロームベルガー講演内容；MonikaStrom
http://gendaishiken.web.fc2.com/top.html

また、当日のディスカッションでは日独語間の通訳もあります。

貴重な祝日（勤労感謝の日）ではありますが、皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。

現代史研究会運営委員会

日時：2016 年 11 月 23 日（水）13:00 開始　(開始時刻にご注意ください。)
会場：明治大学駿河台キャンパス・リバティタワー15 階 1154 教室
(最寄駅：JR御茶ノ水駅ほか)

○第 1 報告：アンドレア・シュトゥルツ (Andrea Strutz) 氏(ルートヴィヒ・ボルツマン研究所歴史部門研究員)

Flucht, Vertreibung und Erinnerung: Intergenerationelles Gedächtnis in Familien österreichisch-jüdischer Vertriebener
(「亡命、追放、想起—オーストリア・ユダヤ系被追放者家族の間世代的記憶—」)

概要：本報告では、1938 年のナチ・ドイツによるオーストリア併合後に生じたユダヤ系住民への迫害と、その迫害を逃れてニューヨークに渡ったオーストリア・ユダヤ系家族における間世代的記憶を検討する。とくに、故郷とそこからの追放、人種的迫害の体験が、移住先で子や孫にどのように語り継がれ、家族の記憶を形成しているのか、聞き取り調査に基づき考察する。

コメンテータ：木村真氏(日本女子大学)

○第 2 報告： モニカ・シュトロームベルガー(Monika Stromberger)氏(グラーツ大学講師)

Der Zweite Weltkrieg in der Gedächtniskultur Sloweniens und Österreichs. Ein Vergleich von Erinnerungsräumen in der unmittelbaren Nachkriegszeit
「スロヴェニアとオーストリアの記憶文化にみる第二次世界大戦—戦後初期における記憶空間の比較から—」

概要：本報告では、旧ユーゴスラヴィアのスロヴェニア共和国とオーストリア・シュタイアーマルク州の記憶言説とその実践について、第二次世界大戦後から 1960 年代までを比較検討する。とくに、語りの枠組みとしての「冷戦」と、理論的な基盤としての記憶空間論（アライダ・アスマン）を手がかりに、「英雄像」と「犠牲者像」の構築とその過程における追悼の役割について考察する。その際、具体的な記念碑を参照し、社会主義と自由民主主義共和国の間には一見するよりも多くの共通性があることを示したい。

コメンテータ：山崎信一氏(明治大学)、藤井欣子氏(東京外国語大学)

※今回は、2016 年～2019 年度科研費(基盤研究（B）)「青いウィーンにみる「最底辺」社会層の生活史—「下」からのグローバルヒストリー研究」(代表：水野博子)及び明治大学西洋史ゼミとの共催です。